

成果の説明書

(氏名) 木暮 律子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>地域政策学を学ぶ留学生のための日本語教材の作成を目指し、『地域政策学事典』に出現する漢字及び用語の基礎調査を行った。得られた成果は以下の論文にまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none">・「地域政策学を学ぶ留学生のための学習漢字の選定－『地域政策学事典』を資料として－」『地域政策研究』第20巻第3号 pp.31-43・「留学生の学習支援に向けた地域政策学用語の基礎調査」『地域政策研究』第20巻第4号 pp.1-20 <p>【教育活動】</p> <p>①ゼミナール活動</p> <p>◇3年生：グループ研究の実施</p> <p>「演習Ⅰ」では、毎年グループで研究に取り組んでおり、研究テーマの設定から調査の計画・実施、報告まで学生が主体的に進めている。今年度は2つのグループに分かれ、「群馬県の温泉地における外国人観光客への対応」、「群馬県で暮らす外国人の生活実態」というテーマでそれぞれ調査を実施した。グループ研究の成果は、卒業論文集に調査報告書としてまとめ、春休みのゼミ合宿で発表した。</p> <p>◇2年生：『留学生生活応援ブック』の改訂</p> <p>2年生を対象としたプレゼミ活動において、留学生のための大学生活ハンドブックの改定を行い、内容を最新の情報に修正して冊子にまとめた。</p> <p>②アクティブ・ラーニングの実践</p> <p>「多文化共生論」の講義において、学生自らが問題を発見し、グループで解決策を議論する活動を取り入れることにより、学生の能動的な学びを引き出していけるように工夫した。また、ワークシートの提出を通して受講生の理解度をはかり、学生が持つ疑問を授業展開にも反映させるよう努めた。</p> <p>③異文化コミュニケーション能力の育成</p> <p>「異文化コミュニケーション」の講義において、留学生と日本人学生による異文化間協働のグループワークを実施し、日本語弱者の立場に立った話し方・書き方の実践的なトレーニングを行った。</p> <p>【社会活動】</p> <p>高崎市社会教育委員(平成27年7月1日～平成29(2017年)6月30日)</p>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none">・『留学生生活応援ブック』の作成：この冊子は大学生活に必要な日本語表現や高崎市の生活情報を、留学生にも理解しやすいやさしい日本語で解説したもので、ゼミ活動の一環として2009年より作成している。今年度も新入留学生24名に配布した。・「外国人学生のための進学説明会」参加：日本学生支援機構(JASSO)主催の進学説明会に参加し、日本の大学に進学を希望する外国人学生に対して、本学の特色や学生生活、入試等に関する情報の提供を行った。	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>今年度実施した基礎調査の結果をもとに、留学生のための専門日本語教材を作成する。また、多文化共生マインドの育成を目指した授業の実践と課題について学会発表を行う予定である。</p>	